

みんな、かがやく

中学校の取組

深川第一中学校

“届けよう、服のチカラ”プロジェクト

取組内容

今年度、深川第一中学校では、生徒会SDGs企画として「届けよう、服のチカラ」プロジェクトに参加しています。このプロジェクトは、ユニクロやGUなどを経営するファーストリテイリングが国連難民高等弁務官事務所とともに取り組む、小・中・高校生を対象とした参加型の学習プログラムです。

7月14日にGUアリオ北砂店より社員の方が来校し、「服のもつチカラ」や「難民問題にリサイクルされる洋服がどのように役立っているか」などについて講演をしてくださいました。「服」のもつ重要な意味を理解し、考えることから、難民問題を身近な問題としてとらえ、自分たちができることは何かを考える機会となりました。

講演会後は、生徒会が主体となって、着られなくなった子供服やベビー服を回収しました。本校で回収率が低かったベビー服に関しては、近隣の幼稚園・保育園に協力を呼びかけ、連携しながら回収を行うことができました。

回収した服は、難民などの服を必要とする人々に届けられます。「服の行方」についてファーストリテイリング社からレポートが届いた後に、それらを活用してまとめ学習を行う予定です。

取組のPOINT

- ☑ 生徒会と企業が連携し、リサイクル活動をより活発化させた。
- ☑ 江東区内の幼稚園・保育園にも呼びかけを行い、協力して洋服の回収を行った。
- ☑ 本校で取り組んでいる探求学習の「深一学」を発展させ、全校生徒が同じテーマで問題意識をもち、リサイクル活動を通して自分たちにできることは何かを考え、実践することができた。

取組の様子

幼稚園・保育園の先生方もこのプロジェクトを応援し、協力してくださいました。予想をはるかに超える量のベビー服が集まり、生徒会役員も大変喜んでいました。ありがとうございました。



深川第二中学校

修学旅行先選定会

取組内容

本校の第1学年では、昨年度と今年度に「修学旅行先を自分たちで決める」取組をしました。なぜいつも同じ場所に行く必要があるのか？生徒達が興味のある場所を選んでもいいのではないのか？という発想のもと、主体的に取り組む態度を養う目的で行いました。

多数決ではなく、班で行き先候補の魅力を発信するプレゼンを行いました。ただ行きたい場所を選ぶのではなく、プレゼンの出来を点数化し総合点が高い行き先に決めました。学校公開の日に本番を行い、保護者の方々にも採点に参加していただきました。

本校の生徒は落ち着いていて、素直すぎる面がみられます。「自分で決められること」「自分の努力で未来が変わること」を体感してもらい、今後の学校生活を前向きに送るきっかけにつながりました。指示待ちにならず、自分の意志をもつ大切さに気付いてくれたら良いと思います。

取組のPOINT

- ☑ 選択先は2～3カ所に絞る。多いと收拾がつかない。
- ☑ まず自分で行きたい方を決め、同じ行き先を選んだ生徒どうしてグループを組ませる。仲良しで組ませない。
- ☑ 班員は最大でも4名、何もしない生徒がでないように。
- ☑ まずクラスで発表させ、高評価の班が本番で発表する。
- ☑ 目的をはっきりさせること。何を学びに行くか？ただの観光旅行にならないように配慮することが大事です。

取組の様子

調べているとどんどん行きたくなった。他の班の発表で、自分たちが調べても出てこなかった場所や京都の魅力に気づけた。いろいろなスライドを見て、どちらに行けてもうれしいなと思えた。



司会進行やタイムキーパーも生徒で！



深川第三中学校

「校則の見つめ直し活動」

取組内容

深川第三中学校では、全生徒の意見を取り入れながら、生徒が主体的によりよい学校を目指していけるような校則にしていくために、「校則の見つめ直しに関する中央委員会(略称:校則委員会)」を立ち上げ、令和4年度から活動をしています。

<令和5年度検討事項>

◇頭髪に関する内容

◇「中学生らしい」という文言について

このように、細かい文言についても疑問に感じた部分については徹底的に議論し、深川第三中学校の生徒として何がふさわしいのか、生徒自身の力で決めています。

取組のPOINT

- ☑ 自分たちの力でよりよい学校を目指し、生徒全員が「みんな、かがやく」ための活動を教員がサポート。
- ☑ 全校アンケートの実施や話し合い活動の資料など、Chromebookを積極的に活用。
- ☑ 校則委員会での話し合いの様子をChromebookで撮影し、クラスルームを使用して全教員へ共有。

取組の様子

全体会はもちろん、分科会でも、生徒が主体的に話し合いを進めています。



深川第四中学校

みんな、かがやく「生徒会活動」

取組内容

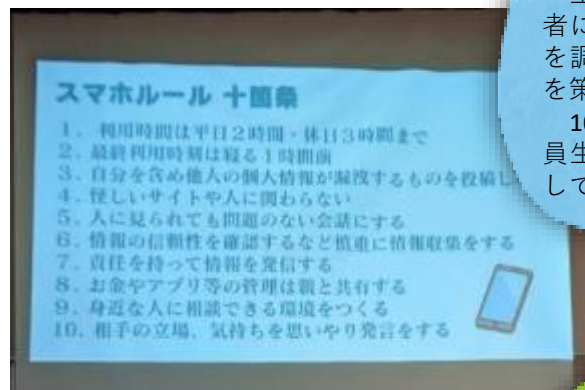
本校では「自律と自立」の育成を掲げ、生徒の主体的な活動の活性化を図っています。その核となる生徒会活動では、本部役員の生徒が中心となり、Chromebookを活用した「デジタル意見箱」やアンケート等によって生徒の意見を吸い上げながら、校則の見直しを提案したり、本校独自の「スマホルール」や「クロームブックルール」を策定したりしました。

保健委員会では、生徒の話し合いの中から「目の健康」を本校の課題として設定し、今年度から「目の愛護給食週間」として、給食委員会と連携した「目に優しい給食」を考案・実施しています。このように、学校全体のために生徒が自ら考え、「やりたいこと」を実現していくことで、共に「よりよい学校」をつくろうとする自治の精神が育まれています。

取組のPOINT

- ☑ 生徒の「やりたいこと」をできるだけ形に！
- ☑ 毎月の委員会活動の反省、目標はChromebookを活用！スライドの作成や全校生徒へのアンケートもChromebookで実施。

取組の様子



四中スマホルール10か条

生徒会本部で、生徒・保護者にアンケートを行って実態を調査し、学校独自のルールを策定しました。

10月の学校説明会では、役員生徒自ら、スライドを使用して紹介しました。

目の愛護給食週間 (10月10日~13日)

視力Aの生徒の割合が少ないことを課題としてとらえ、「目の健康に関心をもってもらいたい」という保健委員の生徒の声から、今年度より給食委員と連携した「目の愛護給食週間」を実施しています。



深川第五中学校

ボランティア活動「パイオニア隊」

取組内容

深川五中の伝統でもあるパイオニア活動とは、地域や、近隣の幼稚園、小学校からの依頼や、学校内の環境整美に取り組むためのボランティア活動を「パイオニア隊」として活動しています。

～今年度の取組み～

- ・近隣の幼稚園、小学校の運動会のお手伝い
- ・花壇のチューリップの球根集め

⇒昨年行った「花いっぱい運動」を生徒会企画で500個ほどのチューリップの球根をパイオニア隊が植えて綺麗に花を咲かせました。その球根を来年度の春に向けて掘り起こす作業を行いました。

取組のPOINT

- ☑ 生徒会企画で生徒主体に取り組む
- ☑ 学年を超えた交流をはかり、学校の雰囲気活性化
- ☑ ボランティアに参加することで「あたたかい心」が育つ

取組の様子

来年の春、
綺麗な花を咲かせて
後輩を迎えたい！！



深川第六中学校

生徒がかがやく『ルールメイキング』

取組内容

10月の生徒総会で、生徒会本部より「靴下に関する校則の改正」が提案されました。

生徒会本部は、六中の落ち着いた校風を維持するため、「社会に適したフォーマル」を「六中の基準」にすることをコンセプトとして、『靴下は白色、黒色、紺色、灰色の四色とし、くるぶしが出る短いソックスは認めない（ワンポイントは可）。』としました。

生徒会本部は、生活委員が実施する啓発検査の結果をもとに、代表生徒が参加する中央委員会などで議論を重ね、生徒総会の審議にかけました。

生徒一人一人が六中のフォーマルについて真剣に考えて、生徒総会にて挙手多数で承認されました。

取組のPOINT

- ☑ 生徒会本部が六中の実態に合わせて、「六中の基準」を「社会に適したフォーマル」と定めて、ルールメイキングを実施。
- ☑ 生徒会本部だけが考えるのではなく、中央委員会などで議論を重ね、生徒の意見を反映。
- ☑ 1年生ではスクールロイヤーを講師として招き、ルールメイキングについての出前授業を実施。

取組の様子

【生徒の感想】

- 学校は生徒が創り上げていく場所だと実感した。
- 校則が何のためにあるかが分かった。
- 生徒全体の意見を取り入れ、アクションを起こしたい。



【生徒総会の審議の様子】



【中央委員会の様子】



【出前授業の様子】

深川第七中学校

七中の新たな伝統

「生徒がつくる 体育祭」

取組内容

これまでの体育祭も、生徒は全力を尽くし、充実した全校行事でした。しかし、これまで以上に「楽しさの質」を向上させた体育祭にするために、生徒自身が主体的に関わり、つくり上げる体育祭を目指しました。

練習では何に取り組むのか、どのようにやるのかを実行委員が全体に説明し、練習のリーダーシップをとりました。仲間との方向性の違いに悩みながらも、うまくいかないところは話し合い、協力して乗り越えました。また、今年度はクラス旗作成を新たに加え、運動の得意でない生徒にも活躍の場があり、クラスの士気を高めるために関わることができました。

当日は競技はもちろん、教員の指示がなくても運営する頼もしい姿が見られました。



取組のPOINT

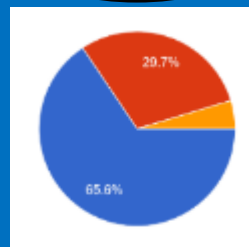
- ☑ 生徒の体育祭実行委員会が、クラスや学年、全体練習のリーダーシップをとり、練習を進めた。
- ☑ 教員は見守り、必要な場面には適切に助言した。
- ☑ 競技はもちろん、放送や用具準備などの運営もできる限り生徒が自ら考え、仲間と協力して進めた。
- ☑ 教員に頼らず、自立しようとする気概が育った。

取組の様子

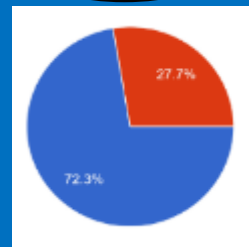
- できていた
- どちらかといえばできていた
- どちらかといえばできていない
- できていない

今年度の体育祭は「生徒が主体となって行事をつくる」ことを目標にしていたのですが、実現できていたでしょうか？

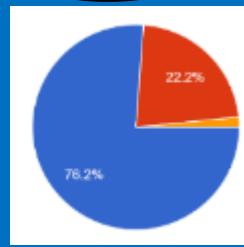
1年生



2年生



3年生



【生徒の声】

- ☑委員会に所属している人が中心となって、一人ひとりが素早い行動を意識して先生の役割をなくせるように頑張っていたと思う。
- ☑みんなが自分で考えて行動し、率先して体育祭に取り組んでいた。
- ☑私は体育祭実行委員になったので前日の準備や体育の時間の練習内容を考えたり生徒だけで話し合ったりする機会がたくさんあった。



深川第八中学校

生徒主体のきまりの改定

取組内容

今年度より、身だしなみのきまりが改定されました。また、休み時間中のChromebook使用が許可されました。これらは全て目安箱の意見や生徒会本部役員の公約から実現に至ったものです。一部の生徒だけでなく、全生徒からアンケートを取ったり、何度も話し合いを重ねたりしました。教員中心ではなく、生徒自らが計画を立て、実行・確認をし、改善していったので、生徒自身も達成感を味わい、自分たちで定めたきまりを守ろうという主体的な姿勢につながりました。

現在、オンライン目安箱というChromebookを活用した新たな取組も始めました。生徒が生徒の意見を大切に
する八中にしていきます。

取組のPOINT

- ☑ 教員は生徒が計画したものに他の視点からのアドバイス。
- ☑ 取組を進めていく中で、生徒自らが反省点を見つけ、改善に努めた。
- ☑ 中央委員会に関わる生徒だけでなく、Chrome bookを用いて全校生徒にアンケートを実施。

取組の様子

毎週の集合で話し合いをしたり生徒会朝礼で運営をしたりしています。



有明中学校

「小中交流活動」

取組内容

有明中学校は施設一体型の小中連携校として特徴を生かし、小中のなめらかな接続を意識し、様々な連携活動に取り組んでいます。その中でも特に年2回実施する「小中ふれあいデー」と「読み聞かせ」の活動は中学生が昔の自分を思い出し、どうすれば楽しんでもらえるかを真剣に考える企画です。

「小中ふれあいデー」では、小学生が安全にかつ楽しく遊べるようにとクラス全員が考えた遊びを、全校が同じ日の昼休みに小学生と一緒に遊ぶ取組です。小学校と中学校の全施設を使います。この交流は双方にとってとても良い刺激になります。

第2回は、新たな遊びとして「ベーゴマ」や「めんこ」などの昔遊びをする予定です。

「読み聞かせ」は中学校の図書委員による取組で、朝の学活の時間に中学生が小学校の教室に行き、本を読むというものです。年に数回の行事ですが、小学生にとっても人気のある活動です。

取組のPOINT

- ☑遊び・本の選択から当日の進行まですべて中学生が責任を持って行います。どうすれば小学生が楽しめるのかを中学生が一生懸命考えます。
- ☑小学生のときに体験したことを立場を代えて中学生で取り組むことで小学生の時の気持ちを推し量った活動となります。
- ☑遊び決めや次回につなげる反省をChromebookを使って共有します。
- ☑職場体験でさらに関わりを持つ生徒もいて、交流の深みが出ます

取組の様子

【小中ふれあいデー】
小学生も中学生もこの日をととても楽しみにしています。交流の後はお互いが仲良くなり、元気にあいさつをかわします。



【小中読み聞かせ】
小学生が楽しめる本を中学生が選びます。小学生が一生懸命聞いてくれるので、やりがいのある活動です。

辰巳中学校

生徒会企画：辰中チャンネル

取組内容

1. 目的→辰巳中学校の様々な情報に関する動画を作成し、全校生徒に共有することで、生徒一人一人に自分が辰巳中の一員であるという自覚をもたせ、より良い学校生活を送るために何をすべきかを考えさせる。

2. 内容→毎月、各生徒委員会・学級・部活動の取組や現状に関すること、また実施される行事に関する動画を制作し、各学級の朝学活で生徒に見せる。

※過去作品として

第1回 辰中チャンネル開設のお知らせ

第2回 意見箱のデジタル化について

第3回 令和5年度からの校則の改正

取組のPOINT

☑生徒会役員が、自分たちで制作した動画を全校に配信することで、全校生徒の代表であるという自覚と、辰巳中をより良い学校にしようとする意識をもたせ、「みんな、かがやく」の実現に近づいた。

☑Chromebookを活用した動画を制作するスキルが向上した。

取組の様子

「作成して・・・」

- ・作成する楽しさを感じた。
- ・視覚に訴えることでわかりやすく感じた。



東陽中学校

みんな、ががやく『文化発表会』

取組内容

・取組の目的 日頃の学習活動及び文化的活動を発表し、互いに高め合う。

協力と団結の意識を高め、豊かな心の育成を図る。

・取り組んだ時期 10月2日より

発表日10月28日

・取り組んだ学年 全学年

各学年の合唱、行事の発表、ダンス部、カナダ短期留学、保健委員が素晴らしい発表をしました。ICTを活用した発表用資料作成や、プレゼンテーションの仕方など工夫が凝られていました。まさに東陽魂です。

取組のPOINT

- ☑ 生徒の実行委員を中心に、こどもまんなかを実現させるために生徒の意見を全て反映させた。
- ☑ 生徒は様々なアイデアを抽出して実行し、教職員との信頼関係がさらに築くことができた。
- ☑ 行事を通して時間の大切さ、主体性がその後の学校生活で見られるようになった。

取組の様子

皆、自信に満ちあふれている姿が見られました。



亀戸中学校

運動会の応援団、色別応援合戦

取組内容

今年度5月に開催された運動会は、係の仕事や練習を生徒主体で実施しました。また、学年を超えた関係を築くために、学級の色に分けられた縦割りのグループをつくり、同じチームとして競技に臨んでいます。特に、色別応援合戦では、3学年応援団の生徒が中心となり、内容を自分たちで考え、後輩や学級の仲間に教えている姿が見られました。Chromebookを活用して、昨年度までおこなってきた紙での色別応援練習の用紙の配布を廃止しました。また、動きの動画を撮影しておきました。最初の練習に臨む前にChallenge Wednesdayなどを利用して動画を確認することで、ダンスや集団での動き、声出しなど限られた時間の中で効率的で工夫した練習をすることができました。応援合戦は運動会の大きな見所になりました。

取組のPOINT

- ☑ 生徒が主体的に企画・運営し、一人一人が役割を果たしながらチームが一丸となって発表をおこないました。
- ☑ 応援団によるダンスや振り付けの練習では、覚えることが難しい生徒にもわかりやすく教えるにはどうすればよいかということを工夫していました。
- ☑ Chromebookで、ダンス動画を共有し、あらかじめ確認することで計画的・効率的に練習を進めることができました。

取組の様子

生徒が主体的に進めてきたことで順位の結果など関係無しに大きな充実感を得られました。



応援団青連合



第二亀戸中学校

みんなのために・地域のために・自分のために
二亀ボランティア

取組内容

・目的:地域の方との交流の中で、自分が誰かのために働く活動を通して、他人から感謝をされたり、頼りにされたりする経験から生徒一人一人の自己肯定感を高める。

・時期:通年

・対象:全学年の有志

「二亀中ガーデン」(通年)

地域の方の指導の下、屋上の菜園や花壇の整備・植え付けを行っています。今年度は募集が多く、予定回数を増やして取り組みました。収穫された野菜やブルーベリーはとなりの江東商業高校クッキング部にも提供しました。

「お祭りボランティア」(8月)

地域の要請で、町会の夏祭りに参加しました。子供神輿やテントの設営など朝早くからお手伝いをしました。コロナ禍でなかなかできなかったお祭りも大成功でした。

「地域清掃」(7月・11月)

生徒会が企画した地域清掃を地域の方・江東商業高校のJRC部にも声をかけて実施しています。小さなゴミまで丁寧に集めました。

取組のPOINT

- ☑ 地域との関わりの深い亀戸地区だからこそ、地域のために中学生でもできることを積極的に！
- ☑ 毎年、行うごとにボランティアの参加者が増えている。
- ☑ 学校だけで完結せず、地域や高校生とも一緒に取り組むことで、ふれあいが豊かに。

取組の様子



ボイ捨てが意外とあるな

ボランティアのベストも作りました。



かわいい子供相手に、とても楽しくにぎやかでおもしろかった！

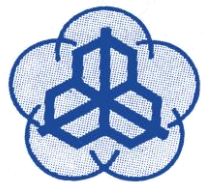
法被姿もカッコいい。



今年は猛暑で不作でした



地域の方が親切に教えてくれて本当に楽しかった！



第三亀戸中学校

笑顔で収穫！「亀戸大根」

取組内容



亀戸大根とは？

文久年間(1860年)の頃から昭和初期まで、亀戸香取神社周辺で栽培されていました。明治の頃は「おかめ大根」や「お多福大根」と呼ばれ、大正初期に産地の名を付けて「亀戸大根」と呼ばれるようになりました。根が30cmと短く、先がくさび状に尖っているのが特徴です。今では幻の大根と言われています。

そんな亀戸大根を復活させるべく、健康委員会で歴史や種の調査を始め、本校で栽培することに決定しました。また、その情報を聞きつけたボランティア部が「是非協力をしたい」とのことで、亀戸大根の復活栽培作業に加わりました。耕運機を使った田起こし、鍬を使用しての畝作り、そして、種蒔き。その後は、毎日、当番制で水やりを行いました。冬休み中は有志の生徒が水やりを欠かさず行いました。そして、収穫です。葉が大きく育ってはいますが日本一小さいと言われる大根です。収穫時期をみんなで慎重に考えながら、笑顔で収穫！全部で280本！50kgの大収穫でした。

収穫した大根はみんなで山分けにしたり、給食の味噌汁の材料にしてもらったりして、全校で幻の亀戸大根を美味しくいただきました！

取組のPOINT

- ☑健康委員会・ボランティア部がそれぞれにかがやけるよう、水やりや雑草抜き肥料撒き等々の役割や当番を自分たちで考え、継続的に出来ることを自主的に行うようにしました。
- ☑来年度に生かせるようにChromebookを使用して成長記録を付けました。
- ☑収穫した亀戸大根を給食で全生徒に試食して、味わって笑顔になってもらうことが目標。

取組の様子



- ・畑で野菜を育てるのも自分の手で収穫するのも初めてです。
- ・水やりや雑草を抜くのはたいへんでしたが育った大根を見て嬉しかったです。
- ・みんなの役に立てていることが嬉しいです。
- ・給食で食べるのが楽しみです。



大島中学校

人権発表

取組内容

10月に**すべての人が「普通」に過ごすことのできる社会**(普通とは「平等で差別を受けない状態であること」)の実現を目指し、人権発表を実施しました。

障害のある人々への理解を深めるため、全学年で、様々な障害のある方の生活を疑似体験し、その後で話し合いを実施しました。この経験を基にしたまとめとして、文化祭で人権発表を行い、「障害のある方の実体験に基づく劇の上演」「手話の紹介」「障害のある方からのお話を聞く」など、様々な形で共有しました。

また、障害に関する理解促進だけでなく、**人それぞれの個性を尊重し合う**という点にも着目し、多角的な視点からのアプローチで取り組みました。

取組のPOINT

- ☑ 生徒会による授業づくり及び発表の企画。
- ☑ 人権尊重のためスライドや台本作成時の丁寧な言葉選び。
- ☑ 生徒たちが互いに意見交換をし、一人一人の責任ある行動の重要性について学んだ。
- ☑ 全員の意見が見える化し、話し合いをよりよく進めるため、Googleジャムボードを活用。

取組の様子

聴覚、視覚、身体の障害のある方の生活の疑似体験をしました。



障害のある方の実体験に基づく劇



耳栓を使ったコミュニケーション体験



講師や障害のある方からのお話をきく

第二大島中学校



「ランチタイムコンサート ♪」

取組内容



*「みんな、かがやく」

新校舎完成を機に、木材を基調とした校舎を生かし、生徒が楽しみ、一体となれる活動として「食後のひとときに音楽を」をテーマに「ランチタイムコンサート」を企画、実施しました。この取組は、計画から当日の準備まで全て生徒会本部が主体となって運営しました。

吹奏楽部によるクリスマスコンサートや有志によるピアノやギターの演奏など、コンサートの内容も生徒が主体となって考えました。多くの人に見てもらえるように、吹き抜けの中心にある大階段を会場にしたことで、全方位から鑑賞可能となり、全学年・教職員で盛り上がりました。

*発表者も鑑賞者も音楽を通じて互いに認め合い、心地よい空間を共有しました。

取組のPOINT



- ☑ 生徒が企画から運営を行い、全生徒が参加できる環境を整えた。
- ☑ 取組を支えることの大切さを学んだり、演奏をすることによる達成感を感じたりできるようにする。
- ☑ 準備を円滑にするために、Chromebookを利活用し、ToDoリストを作成した。

取組の様子



仲間との絆がより深まる
良い機会だった。
運営する側はやりがいを感じられて良かった。



大島西中学校

みんなで作れ！笑顔の花束

～生徒会から広がる主体的な取組～

取組内容

生徒会本部役員主催の生徒会朝礼を月1回実施しています。「全校で楽しめる企画を」という目安箱に入った生徒の意見を取り入れ、先生方の意外な面を知ってもらおうという企画で、全校生徒参加型の「先生クイズ」を行いました。生徒と先生の距離がグッと縮まるだけでなく、クラスや学年を越えて大島西中学校が一つにまとまる学校の風土づくりにつながっています。また、夏休みの生活が有意義なものとなるよう「夏休みの過ごし方」を寸劇形式で実施しました。先生方からの指導ではなく、自分たちで注意点を考え、まとめ、伝えることでしっかり生活していこうと自治力が高まっています。どちらの活動も笑顔いっぱいになりました。

今後、全校生徒が笑顔であふれるよう「Thank you」を伝えあう取組を実施する予定です。

取組のPOINT

- ☑ 生徒の意見を反映し、生徒全員が参加できること、笑顔につながることを大切にすることで意欲が高まり「やってみよう！」が続出！
- ☑ すべての生徒の意見を集約するためGoogle Formを積極的に活用し、生徒全員が自分たちの手で創る学校を意識！
- ☑ 主体的な取組が広がり、大島幼稚園の運動会、地域行事、墨東特別支援学校との交流等の有志募集ボランティアに多数参加！

取組の様子

「やってみよう！」を大切にすることで、ボランティア参加の生徒は「達成感があった！」と、笑顔の花が咲き、心のつながりも感じることができた素敵な体験ができました。



砂町中学校

砂町地区祭りボランティア参加

取組内容

【取組の目的】

- ・新型コロナウイルス感染拡大時期において、学校と地域のつながりが一旦途絶えてしまった。今回4年ぶりに「江東区民まつり砂町地区大会」が開催されたことを契機に、学校と地域との交流を深め、生徒に地域(「ふるさと」)の一員であることの意識を育むことを目的に参加した。
- ・更に生徒会の活動を中心に、校内で広く共有することで多くの生徒に浸透することを意識した。

【時期】令和5年10月1日(日)

【生徒】生徒会役員及び特別支援学級生徒の計16名

【概要】生徒による「風船プレゼントイベント」等の補助

取組のPOINT

- ☑ 地域との連携を再構築すると共に、それらを生徒会新聞又は文化発表会などを活用して、より多くの生徒に認識してもらうことを意識した。
- ☑ イベントの開会式や活動の当初は、緊張気味の生徒も徐々に会場の雰囲気慣れ、笑顔で対応できるようになっていった。地域の方からも生徒に感謝の言葉が多くかけられ、自信をもたせることが出来た。

取組の様子



第二砂町中学校

小中連携の取り組み

取組内容

・いじめ防止授業 by 生徒会 with 三砂中@二砂小

9/13(水)に高学年児童を対象に行いました。

・部活動体験入部(野球部・陸上競技部)

9月から高学年児童を対象に行っています。

・小学校行事ボランティア

8/19(土)・9/17(日)@五砂小

10/28(土)@二砂小

各小学校の行事で販売やバザーの手伝いをしました。

・委員会・部活動紹介 by 生徒会 活用

委員会や部活動を生徒会役員が取材し、資料を作成した後、小学校に送付します。

取組のPOINT

- ☑ 「生徒会発信」の企画が満載！
- ☑ ボランティアでは部活動に入部していない生徒にも活躍の場あり
- ☑ 小学生と関わることで主体性や責任感が向上！
- ☑ Chromebookを活用し、近隣校の小学生に本校を紹介します。

取組の様子

五砂小の児童はこの後に
連合運動会に出場しまし
たε = ε = r(> <)



出前授業



いじめ防止授業

写真(取り寄
せ中)



第三砂町中学校

みんなが
かがやくための「いじめ撲滅」活動

取組内容

<取組の目的> 本校から“いじめ”をなくす、砂町から“いじめ”をなくす、江東区から“いじめ”をなくす、日本から“いじめ”をなくす、最後に、世の中から“いじめ”をなくす。

<取り組んだ時期> 令和4年1月～現在に至るまで。その活動は三砂中のレガシーとなり、これからも永遠に続いていく活動である。

<取り組んだ生徒> 主体:本校生徒会本部役員

<取組の概要> 令和4年1月「令和3年度 全国いじめ問題子供サミット」へ参加、令和4年5月「生徒総会」にて『いじめ撲滅宣言』、令和4年8月 第三砂町小学校にて「出前授業」を実施、令和5年9月 第二砂町小学校にて「出前授業」を実施。

取組のPOINT

- ☑ 生徒会本部役員が「いじめ撲滅」をめざし、3つの取組を提案。①小学校への「出前授業」 ②「ありがとう貯金」の実施 ③「いじめ防止キーホルダー」の製作 ※令和4年度中に全ての取組を達成。
- ☑ 小学校への「出前授業」を拡大実施。 ※令和5年度は二砂中生徒会との共同実施を実現。
- ☑ 三砂中「いじめ撲滅」活動は、全てが生徒主体の活動。
- ☑ 「出前授業」実施後、各小学校で児童による「いじめ撲滅」を目的とする主体的な活動が開始された。

取組の様子

まずは三砂中から、そして砂町地域から「いじめ」を撲滅します！



第四砂町中学校

「意欲」と「笑顔」あふれる学校



R5年度 生徒会スローガン
四砂三ヶ「情」
三つの情を大切にしましょう！
情熱 愛情 友情

重点目標：自ら学ぶ、共に学ぶ 自ら考える、共に考える 相互

Speak Up! 尊重プログラム ~みんな、かがやく~

☆対象生徒(時期):3学年、E組(6月・7月に各1回実施)

☆講師:蝦 真理子先生(一般社団法人「アルバ・エデュ」)

☆目的:これからの時代に必要とされる“話す力(プレゼンテーション力)”について、特に高校入試や企業の試験で行われる面接に向け、より効果的な自己PR方法を学び、力を育む。

☆内容:“話す力(プレゼンテーション力)”について学び、「自己分析」や「発声練習」から始め、「考えるー伝えるー見せる」というプレゼンのコツを知った上で、ペアやグループで実践した。

☆取組:このプログラムで学んだことを活かし、「一人一人が自分を上手にPRする」、「自分の言葉で志望動機を語り熱意を伝える」ことを目標に面接練習で取組中。



Speak Up 授業の様子
(3年、E組)



話し合い活動の様子
(2年社会科)

みんな、
かがやく

重点テーマ 「考え、対話する学び」の実現に向けて

「四砂中話し合いルール」作成・周知・活用

☆生徒へ周知する手だて

- ①「四砂中話し合いルール」を全クラスに掲示
- ②生徒会が内容をわかりやすくまとめた劇を動画にし、朝礼で紹介

わかりやすかった
話し合いが楽しみ
(生徒の声)

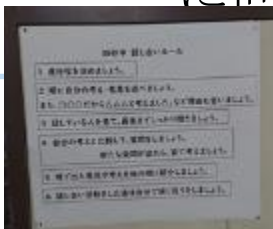
☆具体的な取組

- ①各教科や特別の教科 道徳の授業において話し合い活動の実践
- ②各専門委員会で話し合い、生徒主体で新たな取組を考え提案する“生活向上アクションプラン”
- ③班長会において、学年の問題点や解決策を話し合う活動を実施(1学年)

生活向上アクションプラン
廊下掲示

Chromebook
活用

話し合いルール掲示



生徒会作成
紹介動画



南砂中学校

「地域の一員として地域を元気にしよう」

取組内容

生徒会がボランティアで参加していた「団地祭」の開催が未定となったことで、生徒が「小さい子を自分たちで楽しませてあげたい」という意見がいくつか出たことから、6月の江東区連携教育の日に相談させていただき、交流の機会をもたせていただきました。

10/26、27に幼稚園生、小学5、6年生と交流を行いました。両日とも3年生は「いじめをなくそう」をテーマに劇を披露し、2年生は空き缶で手作りした楽器や、珍しい打楽器、大小様々なリコーダーで演奏を行い、1年生は「自分を相手に理解してもらうには」というテーマで一人一人動画を作成し、披露しました。

幼稚園生から幼稚園バージョンの「ソーラン節」を教えてもらって一緒に踊り、小学生とは授業を大切にするためのディスカッションをグループに分かれて行いました。「ちがいを受け止めながら「ちがうことのよさ」を感じるよい機会になりました。

取組のPOINT

- ☑全校生徒で取り組んでいるため、classroomを使って流れや変更の情報を共有し円滑な運営を行えた。
- ☑生徒会の発案したものが形となった経験を生かし、次に向けて計画的な取り組みにつながっている。
- ☑地域を自分たちの力で元気にしたいという思いが育っている。

取組の様子

「喜んでもらえてよかった」
「一緒にできることってあるんだね」



第二南砂中学校

みんな、かがやく「文化発表会」

取組内容

二南中では毎年秋に『文化発表会』が行われています。第1部では理科部・ダンス部・カナダ短期留学の発表、第2部では最優秀賞・優秀賞・指揮者賞が選ばれる合唱コンクールと吹奏楽部の発表が行われました。今回の文化発表会のスローガンは、「協奏、響奏、競奏～誰もが目を奪われていくステージを～」でした。みんなで協力して楽しく終えることができました。

取組のPOINT

実行委員やパートリーダーを中心にみんなで話し合いをして、各クラスごとにChromebookやCDプレイヤーを活用しながら練習を積みました。合唱をより良いものにするために工夫を重ね、協力することの大切さを学びました。また、賞を取れたクラスが分かったときにはクラス関係なくみんなが拍手をして楽しく終えることができました。吹奏楽部はこの文化発表会のためにたくさん練習を重ねてきました。曲中に観客のみなさんが拍手をしてくださり、会場全体がとても温かい雰囲気になりました。

取組の様子

